

5 青少年の自然体験、社会体験、 生活体験を推進する事業

自然体験を通して、親子の交流を促進

ネイパル砂川

ほっかいどうファミリーキャンプ In Sunagawa

1 事業のねらい

キャンプ等の自然体験活動をとおして、家族の絆を深め参加者同士の交流を図り、家族の楽しい思い出をつくる機会とする。

2 事業の概要

- 期日 R4.7.23(土)～24(日) 1泊2日
- 対象 子どもを含む家族
- 人数 7家族 21名
- 場所 ネイパル砂川 北海道子どもの国

3 プログラム

		13:10	13:30	16:00	19:00	21:30	22:00
7/23 (土)	12:40 ～受付	出合いの つどい	活動1 「テントをたてよう！」 フリータイム①	活動2 「カレーを作ろう！」 まきでご飯やカレーを作ります	入浴 フリータイム②	就寝 準備	就寝
6:30 7:30		11:00					
7/24 (日)	起床	活動3 親子で朝食作りに挑戦！ ※朝食メニュー：パンとスープなど ・テント撤収 ・ふりかえり 《11:00頃解散予定》		フリータイム①：子どもの国で遊んだり、昆虫をとったり、テント内でゆったり過ごしたり、お子さんと相談して楽しんでください。 フリータイム②：ホテル観賞。ネイパル周辺で花火（花火は持参）。 活動3「親子で朝食作り」：ポリ袋でパン生地を作り、フライパンでいろいろなパンを作ります。			

4 ねらいを達成するための活動の工夫

- 家族の絆を深め、家族の思い出を作る体験プログラム
 - ・テントを張ったり、野外炊飯をしたり、親子一緒に協力し、絆を深めるようなプログラム体験を工夫した。
 - ・家族の思い出作りができるように、木の下で青空を見ながら揺れるハンモック体験、夏の夜でなければ味わえないホテル観賞や花火など、自然体験を取り入れた。
- 参加者同士の交流を図る体験プログラム
 - ・夕食後のフリータイムでは、たき火を囲み参加者同士の会話がはずみ、交流が持てるような場とした。

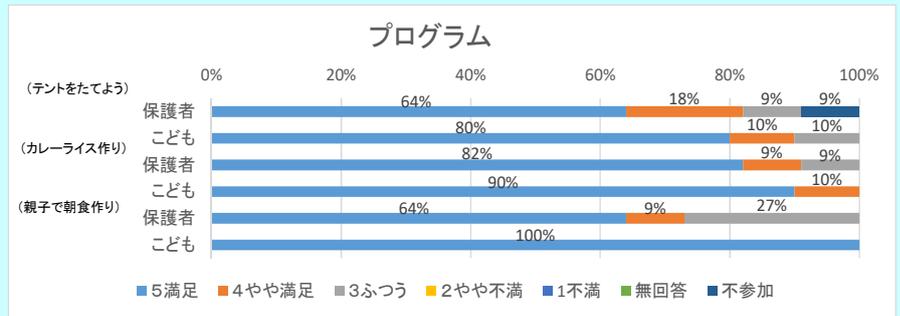


家族の絆を深める体験活動



参加者同士の交流

5 事業の評価



- 参加者アンケートから、「カレーライス作り」は、親子共に90%以上の満足度であった。「薪割体験や火おこし体験など、大人も子どもも一緒に楽しめた。」と好評であった。
- 「事業に参加したことを機に、友だちができた。」と、声があった。色々な活動をとおして、交流を持つことができた。

6 ねらいを踏まえた成果と課題

- 「まき割りなど体験したことのないことやホテル観賞はとても幻想的で感動した。個人でもまたやってみたいことが沢山あった。」などの声が多かった。自然体験活動を次回も取り入れたい。
- コロナ禍のために、交流する場が少なかった。感染症対策を十分に行ったうえでの参加者同士の交流を図るプログラムを検討したい。



企画のポイント

親子が一緒に体験し、楽しい思い出を作る機会を持ち、参加者同士の交流を図る。

ゆき遊びの楽しさを体感させ、冬季の外遊びを促進する。

ネイパル砂川

ネイパルでゆき遊び

1 事業のねらい

雪遊びをとおして冬期間の外遊びの楽しさを体験するとともに、体験活動の大切さを知るきっかけの場を提供する。

2 事業の概要

- 期日 R5.2.25(土)～26(日) 1泊2日
- 対象 小学校3年生～小学校6年生
- 人数 33名
- 場所 ネイパル砂川・北海道子どもの国

3 プログラム

		13:30	13:45	16:00	17:15	18:30	20:30	22:00
2/25 (土)	13:00 ～受付	出合いの つどい	活動1 「雪像・キャンドルテ ブル台づくり」	休 憩	活動2 「キャンドルシェ ードづくり」	夕 食	活動3 「キャンドルシェ ード点灯式・花火・焚火」	20:30～22:00 入浴・自由時間 就寝準備
		6:30	7:30	9:00	10:00	12:00	12:30	
2/26 (日)	起床	朝 食	荷物移動 部屋清掃 活動の準備 部屋点検	活動4 「スノーシュー体 験」	休 憩	活動5 「すべり台体験 スノーラフティン グ」	ふりかえり	12:30 解散 北海道子どもの国 (砂川ハイウェイオアシス館)

4 ねらいを達成するための活動の工夫

- 多岐にわたるゆき遊びのプログラム
キャンドル、スノーシュー、スノーラフティングなど多岐に渡るゆき遊びを取り入れることで、どの子どもにとっても楽しい体験ができるようにした。
- 冬季の子どもたちの国とのプログラム
本事業以外でも、利用可能な子どもたちの国との連携することにより、本事業のみならず事業後の冬季の外遊びを促進した。

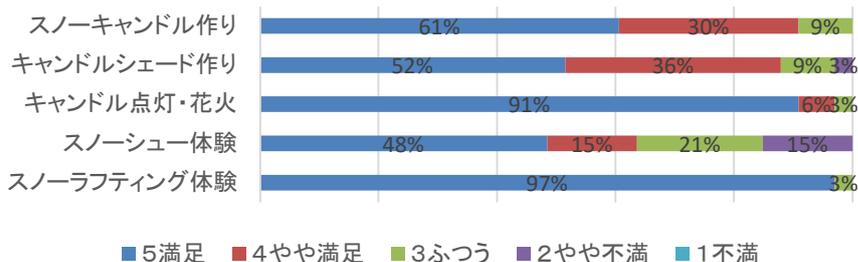


雪の中での花火体験



子どもの国との連携による
スノーラフティング体験

5 事業の評価



- 参加者アンケートから、「スノーラフティング体験」は、97%が満足と回答した。事業後の子どもたちの国の利用が期待でき、外遊びの促進になったと考える。
- 「友だちが、たくさんできた。また、ネイパルの別のイベントで会えたらいいなと思った。」との、声があり、本事業の他にもグループでの宿泊や体験活動への意欲が高まったと考える。

6 ねらいを踏まえた成果と課題

- 宿泊施設ならではの夜のプログラムや、子どもたちの国との連携で多岐にわたる体験活動を提供でき、冬季の外遊びへの関心を高める機会にできた。
- スノーシュー体験では、十分な時間をとる事ができず、子どもたちの国への移動のみとなってしまった。十分な時間を取り動物の足跡を探ることや、雪上を歩く体験を取り入れるとより充実した自然体験活動になったと考える。



企画のポイント

子どもの国との連携で多岐にわたる体験活動の提供や外遊びの促進。

ボランティアと遊ぼう！

1 事業のねらい

いろいろな年代の人と交流、工作活動を体験して協調性やコミュニケーション能力を育みます。

2 事業の概要

- 期日 R4.5.8(日) 日帰り
- 対象 小学1年生～小学6年生
- 人数 42名
- 場所 ネイパル深川

3 プログラム

	8:40	9:00	10:00	12:00	13:00	15:00
5/8 (日)		受付	レクリエーション	工作 「ランタンキャンドル」	昼食	プチ運動会 解散

4 ねらいを達成するための活動の工夫

- 多学年との交流やコミュニケーション体験
 - ・緊張がほぐれたときあとに班での自己紹介となるように手遊び系や体を動かすゲームをいくつか行った。また、低学年には難しめの内容を入れることでボランティアとコミュニケーションが進むような工夫をした。
- ボランティアの育成
 - ・ボランティアの実践事業を兼ねており、ボランティアが参加者と1対1で対応できる機会なので、工作活動中に危険が伴う熱いものや刃物を扱う内容を取り入れた。最初の事業で安全管理を考えることで今後の事業ボランティア時に生かしていけるような体験となるようにした。

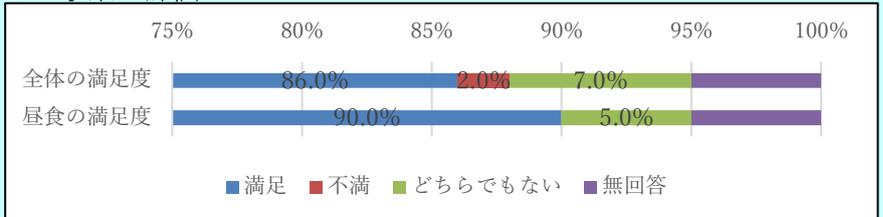


緊張ほぐしのレクリエーション



ろうそくをつかった工作体験

5 事業の評価



- 参加者アンケートから、ボランティアと一緒に活動できたことで工作の時間が楽しかったという意見を多く見ることができた。
- 友達が増えたやできたなどの感想があり、交流ができていたことが伺える。

6 ねらいを踏まえた成果と課題

- レクリエーションと工作で緊張ほぐしとグループ認識を作れたことで午後のプチ運動会はボランティアがいなくても活動を楽しんでいた。アンケートからも「ともだちがふえてうれしかった」という感想も見受けられた。
- ボランティアにもねらいや目的をしっかりと説明することで、体験学習の効果をより高めることができるので、担当間の情報共有や打合せを綿密化していく。



企画のポイント

状況に応じ活動の難易度を変え交流をうまく促進する。目標や目的の共有。

はじめてのおとまり！

1 事業のねらい

親元から離れて生活することで、自分でルールを守りながら行動する力や自立心を育みます。

2 事業の概要

- 期日 R4.6.11(土)~12(日) 1泊2日
- 対象 ネイパル深川に1人で宿泊したことがない小学校1年生から3年生
- 人数 20名
- 場所 ネイパル深川

3 プログラム

	13:00	13:30	14:00	14:30	16:00	16:30	17:00	18:00	19:00	20:00	20:30
6/11(土)	受付	開会式	仲間づくり	ネイパル探検	SDGsとは?	ベッドメイク	レクリエーション	夕食	入浴	就寝準備	就寝
6/12(日)	起床	朝食	清掃点検	パステルアートづくり	アンケート記入 写真撮影	閉会式	解散				

4 ねらいを達成するための活動の工夫

■SDGsと関連させた食事のルール

- ・SDGsの飢餓について理解を深め、考えてもらうために、クイズ形式を取り入れ、PowerPointを作成することで視覚的にも情報を得られるよう工夫し、食事の仕方について考えた。

■自立心を育み創造力を養う創作体験

- ・自分で自由に色や型紙を決めるなど主体的な活動となるよう工夫した。また、型紙に季節の風物詩を取り入れることで、夏を感じられるようにし、創造力を高められるよう工夫した。

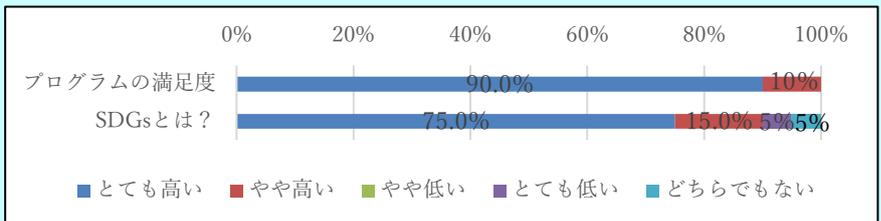


食事の仕方を学習し考える



自立心と創造力を培う創作体験

5 事業の評価



■参加者アンケートから、友達と一緒に問題が解けて嬉しいという声があるなど満足度が高い。

■SDGsについては「難しかった。」という声もあったことから内容の工夫が必要。

6 ねらいを踏まえた成果と課題

- ボランティアにも事前にねらいを伝えていたことで、ネイパル探検などでは、子どもたちが主体的に考え、行動する場面が多く見られた。
- 小学1年生と3年生では理解力に差があるため、子どもたちに任せる場面、丁寧に説明する場面など使い分けを工夫する必要がある。



企画のポイント

理由を説明し、自分で考えて行動する場を設けることで、自立心を育む。

1 事業のねらい

親子で自然体験に取り組むとともに、子供同士・保護者同士の交流も図る。

2 事業の概要

- 期日 R4.7.9(土)~10(日) 1泊2日
- 対象 年中~小学校4年生とその保護者 25名 8家族程度
- 人数 28名 9家族
- 場所 ネイパル深川

3 プログラム

	13:00	13:30	14:00	16:30	17:00	18:30	18:30	21:30
7/9 (土)	受付	開 会 式	テント設営	夕食 飯ごう炊飯	夕食	入浴 自由 就寝		
	7:00	8:30	10:00	12:00	12:30			
7/10 (日)	ホットサンド づくり	片付け	自然遊び	閉会式 解散				

4 ねらいを達成するための活動の工夫

- 「自由」を大切にされたプログラム
 - ・プログラムの大まかな時間だけを決め、何をを行うか、だれが何をするのかあえて決まりを作らないことにより、交流の時間を確保し、親子や参加者間での会話が生まれるよう工夫した。
- 遊びを通じて自然体験への興味・関心を高める
 - ・つまようじに色を塗り作成した「ネイパル虫」を探していくなかで、虫たちが自然の中で生き抜く知恵を知るとともに、本物の虫探しへの関心が高まるよう工夫した。

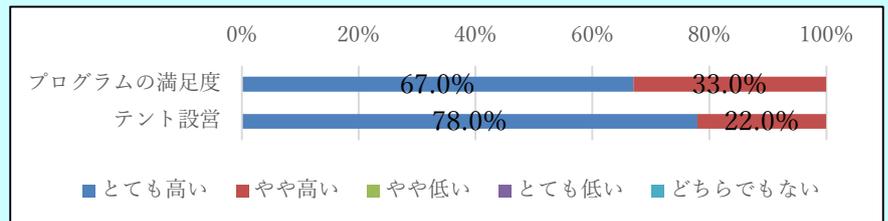


全員で協力して行ったネイパル虫探し



参加者が話し合い、ルールを決める

5 事業の評価



- 参加者アンケートから、「したことのない体験ができてよかった」という感想が多く、ニーズに合うプログラムとなった。
- テント泊では雨にあたってしまったが、「快適に過ごすことが出来た」という声があり、雨の中良い経験が出来たと考える。

6 ねらいを踏まえた成果と課題

- 活動プログラムの時間を大まかな時間にする事で参加者にも余裕ができ、親子の交流だけでなく、参加者間での交流が多く見られた。
- 炊飯の際、親中心となり子供はあまり参加していない様子が見られたので、親子で調理ができるよう、運営方法やメニューの改善が必要。



企画のポイント

家族だけではなく、参加者同士の協力・交流を促すプログラム構成の工夫。

キッズキャンプ

1 事業のねらい

親元を離れて、自分のことを自分で行うとともに、テレビやゲームから離れて規則正しい生活習慣を身に付けるきっかけづくりとする。

2 事業の概要

- 期日 ①R4.8.3(水)～4(木) ②R4.8.7(日)～8(月)
③R4.8.11(木)～12(金) 1泊2日
- 対象 小学校1年生～3年生
- 人数 ①23名 ②20名 ③10名
- 場所 ネイパル深川

3 プログラム

7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
★受付時間 13:00～13:30						受付	開 会 式	仲 間 作 り	水遊び	入 浴	ベッ ト メイ ク	夕食	焚火	就寝	
★開会式 13:30～14:00															
朝食	清掃	自由遊び	閉 会 式	解 散	★解散時間11:30(予定)										

4 ねらいを達成するための活動の工夫

- 多様な遊びの場の設定
 - ・水鉄砲や水風船遊びの他に、ブルーシートを利用した滑り台を設置し、上手く滑るために試行錯誤し工夫する機会を設けた。
 - ・火の色彩が変化する教材を使用し、視覚的にも楽しめる焚火体験を実施。
- 交流の場の設定
 - ・個人や少人数で遊ぶものから、綱引きや大縄など多人数で遊べる物も用意し、参加者同士の交流の場を設けることで、親元を離れても不安にならないよう配慮した。

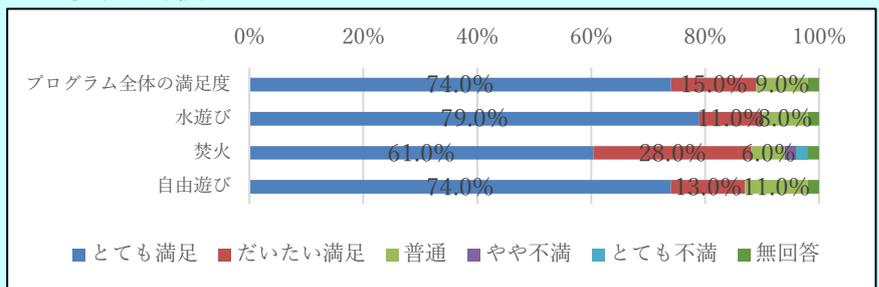


滑り方を工夫して楽しむ



各自好きな活動を楽しむ

5 事業の評価



- 参加者アンケートから、
 - ・水遊びや虫取りなどいろんなことができて楽しかった。
 - ・お友達がたくさんできてうれしかった。

6 ねらいを踏まえた成果と課題

- 家庭から離れた環境下でも交流の場を設けることで、多くの友達を多く作る事ができ、楽しみながらネイパルでの活動に取り組むことができた。
- 焚火の時間に実施したレクでは、子どもに理解しづらい内容の物があつたため、進行方法の工夫や別な活動に切り替えるなどして、子ども達の興味関心を保つ方法を考えるべきだった。



企画のポイント

子ども達間の交流を促進する活動を主眼に置き、慣れない環境下での活動にも楽しく取り組める雰囲気を作る。

ハロウィーンパーティー

1 事業のねらい

異学年との交流を深めるとともに海外の文化に触れることで外国について興味関心を持つ機会とします。

2 事業の概要

- 期日 R4.10.22(土)～23(日) 1泊2日
- 対象 小学1年生～小学6年生
- 人数 53名
- 場所 ネイパル深川

3 プログラム

日時	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	
1日目(土)	★13:00～13:30 受付 仮装した状態でご参加ください!						受 付	レ ク	クイズ ラリー	準 備	夕食	自由 入浴	準 備	消 灯			
2日目(日)	朝食	清掃	トートバッグ づくり	閉 会 式	解 散	★解散時間11:30											

4 ねらいを達成するための活動の工夫

- 異学年との交流を深める
 - ・緊張をほぐすことを目的にレクを行い、班の構成は学年がまざるように編成した。宿泊室も同じ学年だけになるようにはせず、低学年と高学年一緒となるように行った。
- 海外の文化に触れ、外国について興味関心を持つ
 - ・参加者に仮装をしてもらい、本格的な雰囲気味わってもらうとともにクイズでハロウィーンについてふれ起源や文化について学習を行った。
 - ・楽しみながら活動できるよう構成し、海外への興味関心を高めるよう工夫した。

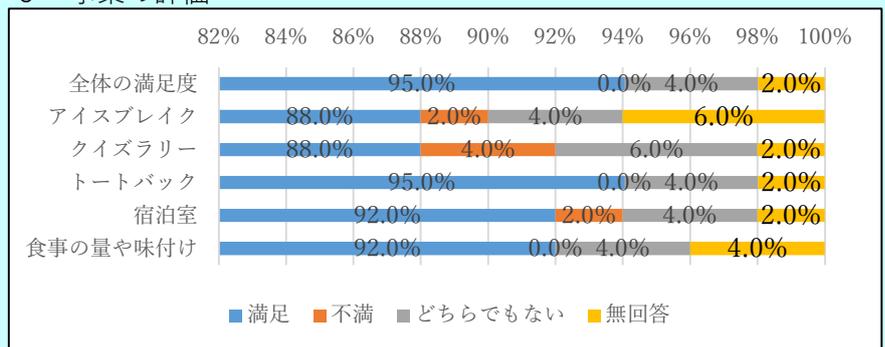


クイズラリーの様子



トートバッグづくりの様子

5 事業の評価



■参加者アンケートから、ボランティアと一緒に活動できたことで仕事の時間が楽しかったという意見が多く見られた。

6 ねらいを踏まえた成果と課題

- 異学年で班を編成することで、高学年が低学年の面倒を見る意識をもつのでより交流を生むことができた。
- 外国について興味関心を高めるためには ALT に協力依頼するなどし、現地の話や実際の話、英語にも触れさせることが効果的と考える。
- 学習やSDGs要素を取り入れることで、より学習要素を高めていくことができるのではないかと考える。



企画のポイント

異学年交流をすることで、普段とは違う環境での生活体験をし、楽しみながら活動をして興味関心を向上させていく

メイク・ザ・クリスマス

1 事業のねらい

料理や創作活動を通して外国の文化に触れ、豊かな情操を育むとともに、仲間と協力することを学ぶ場とする。

2 事業の概要

- 期日 ①R4.12.10(土)～11(日)
②R4.12.17(土)～18(日) 1泊2日
- 対象 小学1年生～小学6年生
- 人数 ①52名 ②58名
- 場所 ネイパル深川

3 プログラム

日時	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
12/11 12/17 (土)	★受付時間 13:00～13:30		★開会式 13:30～14:00		受		開	フ	オーナメント		タ	ク	自	消		
					付		会	レ	クッキー作り		食	リ	由	灯		
							式	イ				ス	入			
							散	ク				マ	浴			
12/12 12/18 (日)	朝食		オーナメント作り		閉		解	★解散時間11:30								
					会		散									
					式											

4 ねらいを達成するための活動の工夫

- 外国の文化に触れる料理プログラム
 - ・オーナメントクッキーを作り、その由来についての学習要素を取り入れることで外国の文化に触れる機会とした。
- 協調性を高める運動・創作プログラム
 - ・レクリエーションで良い成績を残すためにグループごとで作戦を考える時間を確保したり、一つの物を作り上げることを創作プログラムとして行い、仲間との協調性を養う内容として提供した。

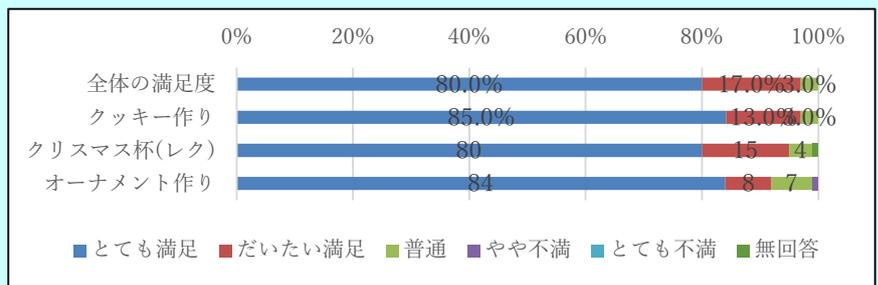


外国文化に触れる



仲間と協力して活動に取り組む

5 事業の評価



■参加者アンケートから

- ・クッキーがうまく作れて楽しめた。
- ・レクで1位目指して頑張った。悔しい結果だけど楽しかった。

6 ねらいを踏まえた成果と課題

- 子どもたち同士の協調性を高めることに焦点を当てて各プログラムの内容を計画したことで、仲の良い友達を作ることができたという子どもが多かった。
- 外国のクリスマス文化を学ぶため、料理プログラムを取り入れたが、コロナ禍の中では衛生管理で留意することが多く、手の込んだものを子どもたちに作らせるということが難しい。



企画のポイント

子どもたち同士が協力して一つの結果を生み出すようなプログラムを行うことで、協調性を高める。

お菓子作りの楽しさを知る

ネイパル深川

お子様ショコラティエ☆

1 事業のねらい

お菓子作りを通じて協力を学ぶとともに、お菓子作りの楽しさを知る機会とします。

2 事業の概要

- 期日 R5.1/21(土)~22日(日) 1泊2日
- 対象 小学校4年生~中学校3年生
- 人数 24名
- 場所 ネイパル深川

3 プログラム

日時	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	
1/21 (土)	★受付時間 13:30~14:00 ★開会式 14:00~14:30						受付	開会式	入室	チョコレート バー作り	夕食	おかしな 運動会	自由 入浴	消灯			
1/22 (日)		朝食	パンケーキ作り			閉会式	解散	★解散時間12:00									

4 ねらいを達成するための活動の工夫

- 相手を思いやり、協力する活動
 - ・班単位で行うことで、お菓子作りを仲間と協力できるように工夫した。また、お土産としてラッピングを作成することで、渡す相手のことを考えられるように工夫した。
- 食べる直前まで完成しない「雪崩パンケーキ」
 - ・完成した姿がどのようなになるのか想像しながら調理を行っていくことで、高揚感が増し、お菓子作りが楽しくなるような工夫をした。

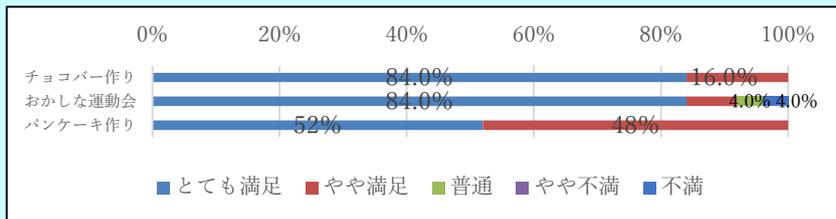


協力してグラムを量る



完成形を想像しながら盛り付けていく

5 事業の評価



- おかしな運動会では「勉強しながら運動できたのが良かった」という声があり、満足度が高かった。
- 「パンケーキの量が多かった」という声が多く、時間帯の設定や量などを検討する必要がある。

6 ねらいを踏まえた成果と課題

- 「みんなで楽しくできた」「はじめてだけど上手にできた」というアンケート結果から、仲間と楽しみながら協力することができていたと考える。
- 調理時間が長引いてしまったり、「パンケーキの量が多かった」という点から、対象や時間帯を考えて作業を見直す必要がある。



企画のポイント

仲間と協力し調理を行うことで協調性を育みつつ、お菓子作りの楽しさを味わわせる機会の提供

ウィンターフェスタ

1 事業のねらい

冬ならではの遊びや環境教育を通じて、協調性や社会性を育む

2 事業の概要

- 期日 R5.2.11(土)~12(日) 1泊2日
- 対象 小学校1年生~6年生
- 人数 46名
- 場所 ネイパル深川

3 プログラム

		13:00	14:00		16:00	17:45	18:45	20:00	20:30	
2/11 (土)		受付	開会式	雪遊び	入浴 ベッドメ イク	夕食	水について 知ろう	就寝 準備		就寝
	7:15	8:30	9:00	11:00	11:30					
2/12 (日)	起床	朝食	清掃 点検	スノードーム 作り	閉 会 式	11:30 解散				

4 ねらいを達成するための活動の工夫

- 冬の遊びを体験しながら協調性を育む
 - ・スノーラフティングやそりすべり、雪だるま作りなどを通じて、冬の遊びを体験するとともに、複数の班で活動することで、様々な年代と交流し、協調性を育めるように工夫した。
- 水について学ぶ活動
 - ・水と油の実験を行うことで、小学校低学年でも理解が深まるよう工夫するとともに、世界では水をめぐってどのようなことが問題となっているかを学ぶことで、環境教育やSDGsへの関心を高める場とした。

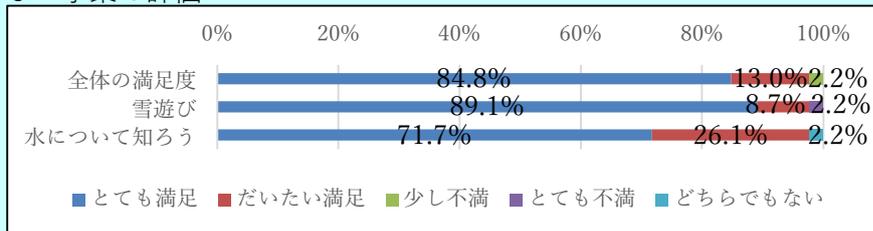


冬ならではの体験活動



水について学ぶ活動

5 事業の評価



■参加者アンケートから、各プログラムで97%以上が「とても満足」「だいたい満足」の評価であり、事業全体の満足度が高い。

■実験の活動は実施時間帯を考えた方がより満足度や理解度が高まると感じた。

6 ねらいを踏まえた成果と課題

- アンケートから、「班のひととなかよくなれた」「おともだちがふえた」などの声が多かったことから、事業を通じて参加者同士がコミュニケーションを取りながら交流できていたと感じた。
- 「水について知ろう」のプログラムを夕食後に設けたが、雪遊びの疲れ等から、眠たそうにしている参加者が多かった。実施時間帯について検討する必要がある。



企画のポイント

雪遊びを通じて異学年と交流することで協調性を育み、水について学ぶことで環境問題への関心を高める